

『私の趣味 俳句をやっています！！』

誘われて俳句を始め、2年近くになりました。布施新町内の「みとみ句会」に入っているので、歩いて行けるのが魅力です。18名の年配者（男4名）が会員になっていますが、毎月1回、句会があって顔を合わせます。

句会では、全員が提出した俳句について、互選がおこなわれると共に、先生が講評または添削をしてくれますので、これが勉強になります。

俳句はむずかしいとも言われますが、慣れれば何とか作れるようになります。

幾つかのルールがあるものの、それを踏まえれば俳句らしい形になってきます。

難しい言葉や言い回しを使わなくとも、見たままを素直に表現するだけで、良い俳句が出来ることもあります。ヘタはヘタなりに、いろいろ工夫しながら頭をめぐらしてみることも、脳トレになるのではないかと思って取り組んでいます。

私は高齢者なので、今さら頑張って芭蕉のような俳人になろうとは思っていませんし、能力的にもなれるわけがありません。せめて廃人にならないように、できるだけ脳を使って認知症を防止しようと思っているところです。

会ではみんなの親睦を図ろうと、旅行会や忘年会を行って、楽しみながらコミュニケーションも作っていこうという配慮もしています。ある程度楽しくないと長続きしませんから、肩に力を入れず気楽にいこうと思っています。

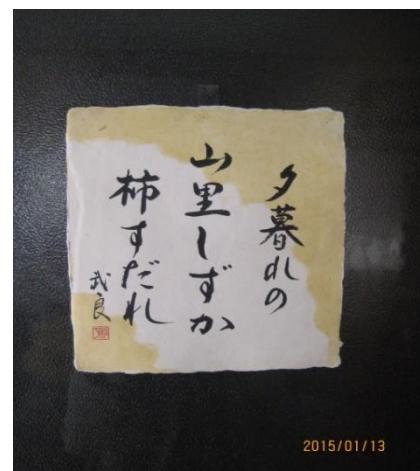
毎年、布施近隣センターにおいて、富勢ふるさと協議会主催の文化祭が開かれますが、1階ホールにて会員全員の出句による展示が行われます。こうゆう時は真剣になって作ろうと思ってはいるものの、時間があれば出来るというものでもないので、やはり締切り一杯になって慌てて出すのが現状です。

句誌「扉」（扉俳句会主宰＝東京）にも、毎月全員の俳句が掲載されるので、向上心のある方は励みにして頑張っているようです。

ここに私のつたない俳句を掲載します。

平成27年1月 山田 武良

冬	秋	夏	春
初晴れの障子にうつる雀二羽	夕暮れの山里しづか柿すだれ	ひと夏を生命のかぎり蝉しぐれ 紫陽花に傘さしのべる幼女かな <small>あじさい</small>	



2015/01/13

